

『哲学の探求』第 41 号刊行にあたって

芸人・出川哲朗のモットーは「永遠の若手」である。この「若手」という言葉にはもちろんお笑い芸人の世界に特有の意味が込められているだろう。だが、過去の業績や現在の地位の上にあぐらをかかず、駆け出しの時代の好奇心や向上心をいつまでも保ちたいという願いは、芸人であれ研究者であれ芸術家であれ、ひとつの道でなにかを探し求めつづける者たちに共有されているのではないだろうか。

『哲学の探求』は、哲学若手研究者フォーラム(略称「若手フォーラム」、旧名称「全国若手哲学者研究ゼミナール」)の記録として編まれる論文集である。哲学若手研究者フォーラムとは、哲学を研究する大学院生やオーバードクターを中心に全国から集まった参加者で開催される、年 1 回の研究集会である。

宿泊施設を備えた会場で 2 日間にわたって行なわれるフォーラムは、大学教員をゲスト講師に招く「テーマレクチャー」と、参加者が自らの研究成果を発表する「個人研究発表」を主軸として構成される。「テーマレクチャー」は、例年 2 ～ 3 名のゲスト講師(レクチャー)に特定のテーマに基づいた発表をしていただいたうえで、レクチャー相互の議論を経てフロア全体での質疑応答をおこなうシンポジウム形式をとっており、フォーラムのメインイベントとも言える大型企画である。「個人研究発表」は、1 コマ 105 分(または 75 分)という通常の学会より余裕のある持ち時間のなかで、学会発表の予行演習や投稿論文の鍛錬、あるいは今後発展させようとしている研究の中間発表などチャレンジングな発表をおこなえる場であり、権威主義を排した談論風発の雰囲気とその大きな特長である。

今号に掲載されている論文は、2013 年 7 月 17 日・18 日に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)にて開催された本フォーラムでの個人研究発表に基づくものである。いずれも長時間にわたる討論を経て練り上げられた力作であり、非常に読み応えのあるものになっている。

2014 年度のフォーラムは、7 月 19 日(土)・20 日(日)の 2 日間で、例年と同様に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催される(詳細は今号

199 ページに掲載されている). テーマレクチャーのタイトルは「幸福と人生」である. 江口聡先生(京都女子大学)・近藤智彦先生(北海道大学)の両氏にご講演いただくことが決定しており, その講演要旨は今号 201~207 ページに掲載されている. また, 本フォーラムに関する最新情報は <http://www.wakate-forum.org/>にて随時更新されるので, そちらも併せてチェックしていただきたい.

本フォーラムは参加者・発表者を広く募集している. 「哲学若手研究者フォーラム」といっても, 参加資格・発表資格としてなんらかの制限が設けられているわけではない. 「自分はもはや若手とは言えないのではないだろうか」などといった不安を抱えながら参加する方も私の知るかぎり(1人か2人しか)存在しない.

実情としては, 大学院生やオーバードクターをはじめとするいわゆる若手の研究者が参加者の大部分を占めている. とりわけ, 修士課程に在籍する発表者が増加しているのが近年の顕著な傾向である. これは, 人文系の分野においても比較的早い段階から(博士号取得を含めて)一定の業績を挙げるのが求められるようになったことのひとつの反映だろう. そうした時勢のなかで奮闘する若手の哲学研究者に貴重なステップアップの機会を提供することができるならば, 本フォーラムが存在する意義は今後ますます高まっていくと思われる.

とはいえ, 本フォーラムへの参加が歓迎されるのは哲学に関心をもつすべての方である. あらゆる垣根を越えて自由闊達に議論を交わし, 各々の思考を共に鍛え上げるための場を広く提供するという本フォーラムの精神は, これからも変わることはない. 修業期間の初期段階にある者がその研究を練り上げていくためのステージであると同時に, すでに多くの経験を積んだ研究者や, 大学などの機関に所属していない方を含め, およそ哲学的探求に携わる者が分け隔てなく共に考え, 批判と応答を重ねることのできる場合は, どのような時代になっても意義をもちつづけるだろう.

哲学若手研究者フォーラムは, そうした哲学の共同作業に飽くなき探求心をもって身を投じようとする「若手」たちに, つねに開かれている.

哲学の魅力にとりつかれ, 自らの問いと格闘しつづける「永遠の若手」が, 今年のフォーラムにも各地から大勢集まり, 白熱した議論を交わすだろう. 本フ

オーラムは、専門分野や大学、身分といった枠を越えて実に多彩な人々と出会い、一日中(ときに翌朝まで)とことん議論することのできる、たいへん希有な場である。そこに溢れる情熱と興奮を、『哲学の探求』を通じて、そしてフォーラム当日の「ライブ」会場で、ぜひとも味わっていただきたい。

2013 年度 世話人総務担当 北村直彰

